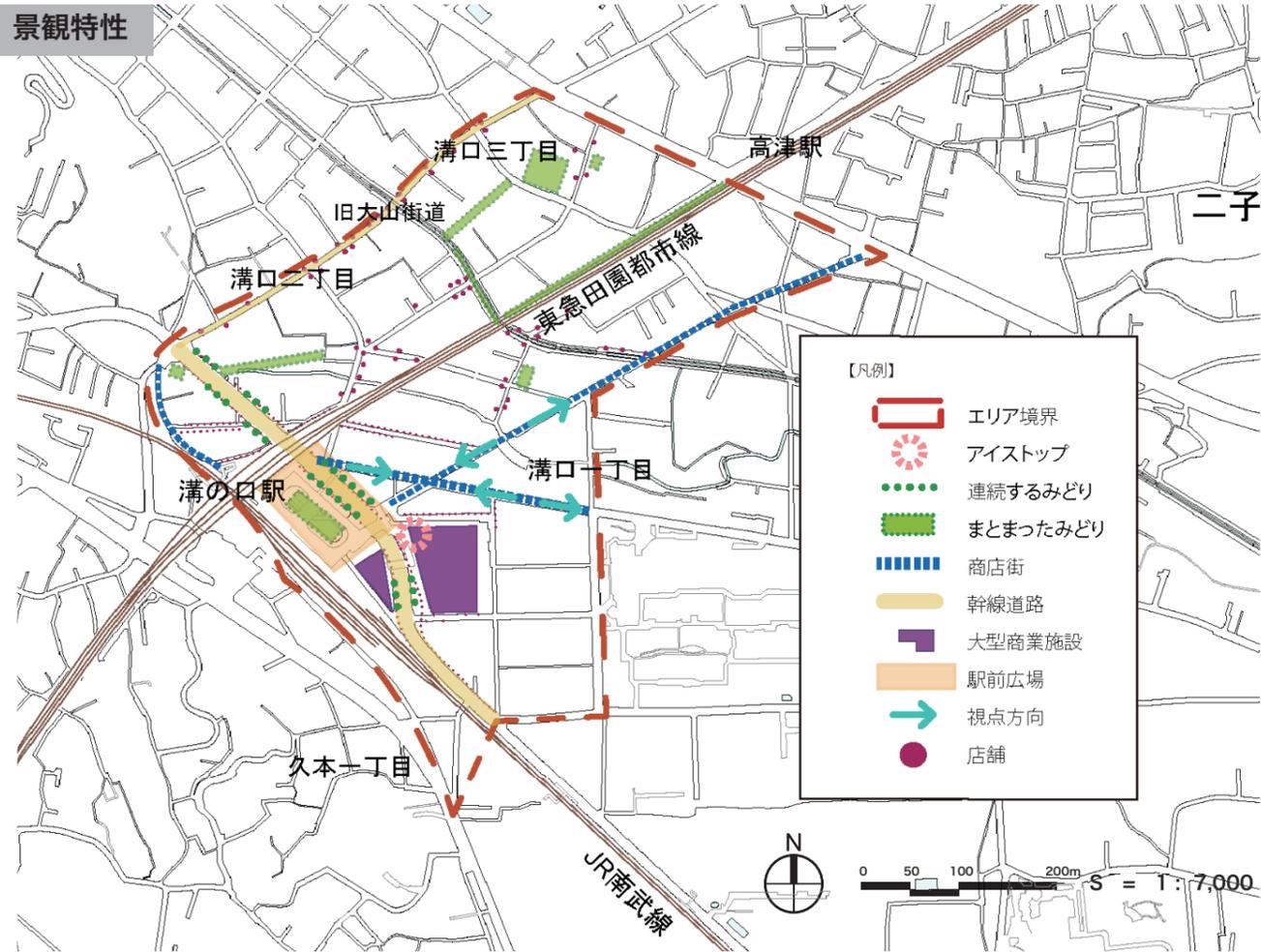


# 5-2 溝の口駅前商業エリア

本エリアは、JR南武線と東急田園都市線・大井町線が交差する「溝の口」駅を中心とした地域で、駅前の大規模商業施設、にぎやかな飲み屋街、そして北側の緑豊かな住宅地といった、異なる性格の景観がコンパクトに集まっているのが特徴です。近年は再開発による新しい建物の整備が進みつつも、昔ながらの街並みや地元根ざした店舗や暮らしが色濃く残っており、新しさと懐かしさが同時に感じられる、都市の“今”を体現するエリアといえます。

## 景観特性



### 1. 路地に広がるにぎやかな飲食街



南口周辺には、細い路地が入り組む飲み屋街が広がっています。昭和の雰囲気を残す小さな店舗が並び、夜になると光や音、人の動きが交差し、活気が感じられます。車の通行が少なく歩行者中心の環境の中で、路地ごとに様々なにぎわいが展開しています。雑多でありながらも温かく、ローカルで親しみやすい雰囲気を生み出しています。

### 2. 駅前の大型商業エリア



駅と直結した大規模商業施設とペDESTリアンデッキが、広がりのある駅前空間を形成しており、その周辺は整形街区の区画となっていて、大規模な商業施設が立地していることから整然とした街並みになっています。一方で、地元の店が残る駅前商店街もあり、駅前らしいにぎわいを感じられる場所です。

### 3. 大山街道と住宅街に点在する店



大山街道沿いをはじめ、戸建て住宅や中低層マンションが中心の落ち着いた住宅地が広がっています。大山街道やそこから分かれた路地には古からの商店が点在し、日常生活に必要な機能がまちの中に自然に溶け込むように配置され、落ち着いた景観を形成しています。

## 景観形成の目標

### 多様な都市機能が混在し、にぎわいのある景観の形成

駅前のにぎわいと、周辺に残る落ち着いた環境が、近い距離で切り替わるエリアである。その差こそがこの場所らしさであり、無理に全体を統一しないことが重要であると考えます。にぎわいのある空間と静かな空間が段階的につながるよう、街路や建物のまとまり方を意識した景観形成を目指す。それぞれの場所がもつ雰囲気を活かしながら、全体として違和感のない連続性をつくっていく。

## 景観形成の方針

### 1. 飲み屋街のにぎわいを活かした空間づくり

#### 景観形成の考え方

雑多でにぎやかな雰囲気の魅力を、安全で歩きやすく、誰もが楽しめる空間に整える。

#### 具体的な方策

- 看板や照明のデザインに一定のルールを設け、1店舗あたりの看板数や大きさを抑え、建物のファサード内に収めることで、歩行者空間への過度な張り出しや情報過多を防ぐ。
- 通路の舗装や照明を改善し、夜間の安心感と快適性を高める。
- 老朽建物の再活用を促す仕組みを整備し、地域の魅力を維持。



活気と歩きやすさの両立

### 2. 駅前ににぎわいの見え方を整える

#### 景観形成の考え方

駅前ににぎわいを無秩序に広げるのではなく、情報量や視覚的な強弱を調整することで、にぎわいが段階的に感じられる景観を形成する。

#### 具体的な方策

- 建物の配置や高さを調整し、通りの圧迫感を抑える。
- 駅前から周辺にかけて看板や照明の情報量に段階性を設け、にぎわいから落ち着きへと連続的に切り替える。
- にぎわいは低層部に集約し、上層部は落ち着いた外観とする。



駅前ににぎわいを整える

### 3. 暮らしの環境としての穏やかな景観の維持

#### 景観形成の考え方

住まいを中心としながら、小規模な商業や事業所が混在するエリアにおいて、静けさや緑の多い環境を保つことで、落ち着いた景観を維持する。

#### 具体的な方策

- 街路樹や公園、植栽スペースの保全・新設を促進。
- 住宅の緑化維持への支援や、庭の活用を後押し。
- 店舗や事業所にも緑や景観への配慮を促し、まち全体の調和を図る。



落ち着いた生活環境の形成